

こんなこと

やっています (その10) 応用生命化学科

応用生命化学科は生物生産科学科・応用生物化学コースを前身として、平成25年に新設された学科です。本学科では、生命の営みに関するさまざまな事象を“物質の流れ”という観点から学び、理解していきます。授業では、基本的なツールとしての化学に加え、生物やその他の領域も総合的に学ぶことで「生命」を理解することを重視しています。そして、真に豊かな暮らしを支える科学技術の発展を図るための基本的・応用的な教育研究を行い、生命・食品・環境の分野で問題解決に積極的に取り組むことのできる人材を養成することを目的としています。

応用生命化学科には、現在学部学生が約150名、大学院学生（修士・博士）が約30名在籍しています。これに対して、教職員が計18名（バイオサイエンスセンター教員5名を含む）の体制となっており、お互いの顔が大変見えやすい環境となっています。本学科の教育プログラムでは、1年次に基礎無機化学、基礎有機化学、基礎生命科学などの講義を配しており、化学の基礎を学びます。あわせて、農学部コア実習、農業と環境の科学、生物資源の科学などの農学部共通の必修科目を受講し、農学の基礎や専門的な学問の学び方などを身につけます。2年次から3年次にかけては、生物化学、食品化学、応用微生物学などをはじめとした専門科目を配し、応用生命化学に関して深く学びます。同時に基礎化学実験、応用生命化学実験を通して、化学的な実験手法や結果の解析法について学びを深めます。4年次では研究室に所属し、個別の研究課題についてより実践的な研究を行います。新学科設立にあたってはこれらに加え、実際に手を動かしながら理解を含める学びを基盤として、演習や実習を通じた新たな取り組みを行っています。1年次後期より、約1年間にわたり化学演習（実際の化学の設問を多く解く実践的内容の演習）の授業を配しています。ここでは、自ら設問に解答することで、化学的な思考力を強化することを目指しています。新入生セミナーにおいては、食品の化学特性をわかりやすく体験できる実習を行い、食の安全や加工に深い見識をもつ人材の育成を目指しています。



現4年生、3年生と教職員

本学科は新設後4年目を迎えることから、来年3月に第1期の卒業生を送り出すこととなりますが、より良い人材を輩出するべく教職員一同努力しているところです。卒業生の皆さまのご支援、ご鞭撻、ご指導をなにとぞよろしくお願いいたします。

(文責：応用生命化学科 蕪山由己人)

食品加工実習の風景



学生実験の風景



- ◆その1 附属農場 会報第145号
- ◆その2 雑草科学研究センター 会報第146号
- ◆その3 バイオサイエンス教育センター 会報第147号
- ◆その4 里山科学センター 会報第148号
- ◆その5 附属演習林 会報第149号

- ◆その6 農業環境工学科 会報第150号
- ◆その7 農業経済学科 会報第151号
- ◆その8 森林科学科 会報第152号
- ◆その9 生物資源科学科 会報第153号

フアイレンダ用中心点